

## 来春からお木曳！

いよいよ来年に斎行される「お木曳行事」に因み、第六十二回（平成十八年、十九年）に行われたお木曳行事の写真を展示します。奉曳や最後の曳き込みの「エンヤ曳」、練りなどお木曳の魅力と楽しさを感じて下さい。



お木曳行事（第62回）

### 暦（カレンダー）、書籍コーナー

神宮と伊勢の魅力がつまった「伊勢講暦」。かつて、江戸時代に御師と言われる伊勢の神職兼プロデューサーが全国の檀家に配った「伊勢講暦」をモデルにした現代の「暦」です。これまで第三十六作が発行されています。



「伊勢講暦」遷宮の書籍

木曾の祝い唄が太鼓櫓に響きます。信州そば、五平餅、舌で味わう木曾の歴史と風土。体験も楽しみです。

12月6日（土）

### ① 木曾の祝い唄

木曾郡上松町で獅子狂言や地歌舞伎などの伝統芸能を伝承する「上若連」。今回は数ある獅子狂言の芸題の中から「八百屋お七」を披露します。



八百屋お七

【会場】太鼓櫓  
【時間】14時30分（神恩太鼓演奏後）

12月6日（土）・7日（日）

### ② 木曾ヒノキの箸づくり体験



木曾といえば、木曾ヒノキで造る木工品。今回は木曾ヒノキの箸づくりを体験。鉋で作っていたできます。

【会場】孫の屋三太前特設会場  
【参加費】500円  
【所要時間】約10分

数量限定

### ③ 五平餅を味わう

長野県の郷土料理で、山仕事の安全を祈る祭りの際などに木こりや狩人たちが作って食べた携帯食。信州味噌の香ばしい味と匂いが食欲を誘います。



【場所】堀扱い屋台

### 木曾の物産展も

五平餅、信州の食の恵み、木曾杢の木工製品などを即売します。ぜひお立ち寄り下さい。

数量限定

### ④ 信州そばを味わう

おかげ横丁の道中茶屋「団五郎茶屋」では、数量限定で信州そばを楽しめます。本場の味とそばの食感をご堪能ください。



12月5日（金）～14日（日）

# お伊勢さんのご遷宮展

おかげ横丁



古代から日本人の記憶や心をつないできた「ご遷宮」。ご遷宮を知ること、日本と日本文化を知ることです。テーマは「御用材は木曾から伊勢へ！」。

杣夫による御神木の伐採（御杣始祭 木曾上松町）

とき 令和7年12月5日（金）～14日（日）

ところ おかげ横丁 大黒ホール（伊勢路 名産味の館 2階）

おかげ横丁総合案内  
☎0596-23-8838

おかげ横丁 株式会社伊勢福  
〒516-8558  
伊勢市宇治中之切町52



伊勢内宮前

今年から始まった第六十三回 神宮式年遷宮。今から千三百年前、天武天皇によって発案され、第一回は持統天皇四年（690）に行われました。それ以来、一時の中断はありましたが、二十年に一度、繰り返し行われてきました。

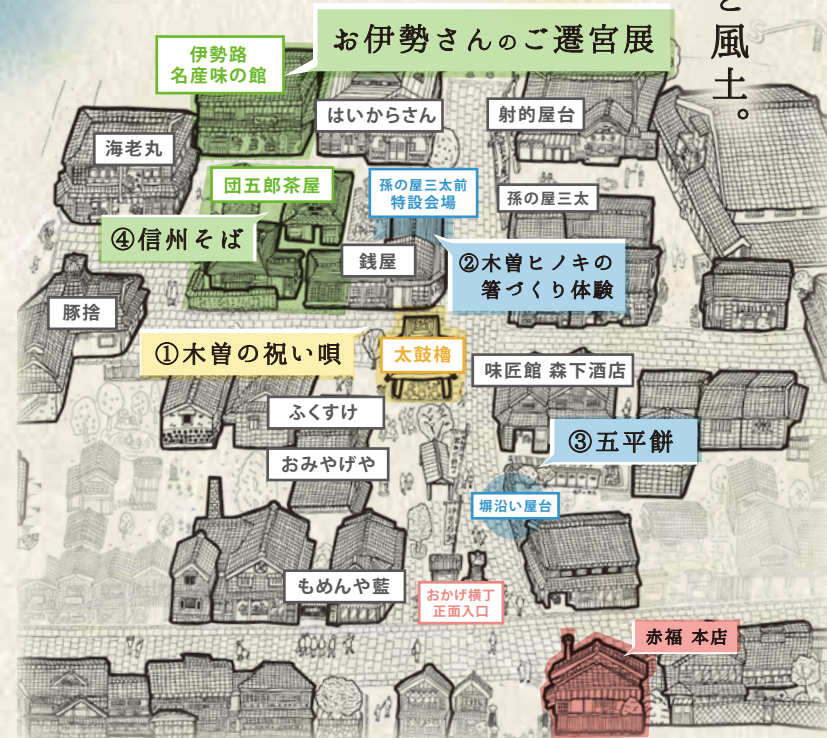
なぜ二十年に一度か？ 諸説はありますが、神宮の神明造りの建築は古代の穀物倉がそのルーツとされ、定期的な建て替えにより、神様が宿る建物の尊厳を維持する期限が約二十年であった、と考えられます。しかし、遷宮は単に建物を建て替えるだけでなく、古代からの記憶やこころをつないできました。

この度の「ご遷宮展」は、今年斎行された山口祭、御杣始祭等の諸祭の中でも、木曾で行われた御神木を伐採する、御杣始祭、御神木祭、御櫓代木奉曳等を中心に展示を行います。

ぜひ、会場にてご覧下さい。

【主催】(株)伊勢福 【企画協力】(有)伊勢文化舎 【写真提供】神宮司庁 【協力】上松町、三ツ紐伐り保存会、伊勢神宮木曾奉賛会（一社）、上松町観光協会

【後援】伊勢市、伊勢市教育委員会、伊勢商工会議所、伊勢市観光協会、(株)赤福





遷宮は神さまのお引越し。  
千三百年前から二十年に一度、行われてきました。  
今回で第六十三回を数えます。

第一展示コーナー

しきねんせんぐう

式年遷宮とは

お伊勢さんのご遷宮は、正式には「神宮式年遷宮」といいます。式年とは「定められた



神領民による御白石持の奉献(第62回)



山口祭(第62回)

折る山口祭に始まり、六月にはご神体を納める「御樋代木」を伐採する御杣始祭、続いてそれを神宮に曳き入れる御樋代木奉曳式、そして九月には御樋

山づくり

ご用材に関わる祭り・行事

「山づくり」は造宮に用いる木を頂くに際しての祭り、それを神宮に曳き入れる行事、造宮作業開始に際して行われる祭りが中心です。遷宮の祭りは今年五月、ご用材を伐採する山の口に坐す神に作業の安全を

庭づくり

建築に関わる祭り・行事

「庭づくり」はおもに造宮に関わる小工が祭りの所役を務めます。新宮を建てる御敷地を鎮める鎮地祭に始まり、宇治橋渡始式、



鎮地祭(第62回)



立柱祭(第62回)

正殿は柱を建てる立柱祭、束柱は鏡の形をした「御形」を穿つ御形祭、棟上げの上棟祭、屋根に関する檐付祭と臺祭と続き、御敷地に白い敷石を奉献する御白石持行事の後、正殿の御扉に御鑰の穴を穿つ御戸祭があり、その後、御船代奉納式と洗清により正殿の造宮は完了します。続いて心御柱奉建、杵築祭を経て新正殿の竣工を感謝する後鎮祭を行い、建築に関わるすべての祭儀が完了します。



遷御の儀(第62回)

第二展示コーナー

御神木の旅

― 木曽から伊勢へ ―

このコーナーは、今年行われた山口祭、木曽での御杣始祭、御樋代木奉曳を中心に展示を行います。ご神体を納める器「御樋代」を伐りだす「御杣始祭」は古く江戸時代から木曽で続く「杣づくり」の中心の祭りです。地元杣夫の伝統の技、三ツ緒伐りにより二本(内宮木 外宮木)のご神木がたすき掛けに寝(倒す)かされます。山中から麓まで下ろされたご神木は化粧掛けされ町の人々により、町の中を奉曳されます。そして、ご神木はトラックに積まれ各地に立ち寄り、盛大な歓送を受けて伊勢に向かいます。伊勢ではソリによる川曳、奉曳車による陸曳により、内宮、外宮まで運び込まれます。このコーナーでは一連の動きを紹介します。



御神木の化粧がけ(6月3日 上松町)



御神木の奉曳(6月4日 上松町)

木曽の三ツ紐伐り

保存会コーナー

今回の御樋代木の伐採で活躍された杣夫たち。彼らの道具類や服などの展示と一緒に、ご神木を伐採された際の木っ端や倒された木の切り株に先端の梢を立てる「株まつり」の株を展示します。



株まつり

せんぎよ

遷御に関わる祭り

新宮へ大御神にお遷りいただく遷御を心に構成されています。新調されて新宮に奉納される御装束神宝を照合する儀式が御装束神宝読合。川原祓所で川原大祓を行い、御装束神宝と遷御に奉仕する神宮祭主以下を祓い清めます。

遷御当日、新調の御装束で新宮の殿内を飾り準備をする御飾、そして深夜の遷御の儀。翌朝、新宮で最初に神饌を奉る大御饌が供えられ、その後、天皇陛下が遷御に際して奉納される幣帛をお納めする奉幣。古殿の御物を新宮に移す儀式の古物渡、その夜には陛下が差し遣わされた楽師により御神楽が行われ、八年にわたる式年遷宮の諸祭行事は完了します。



宇治橋渡始式(第62回)

木曽と伊勢コーナー

伊勢で生まれた伊勢春慶は、江戸時代から明治大正、そして、昭和の中期頃まで日常の器として親しまれてきましたが、生活様式が変わり、生産が三十年後半には途絶えました。元塗師や有志らで平成十六年(二〇〇四)、「伊勢春慶の会」を立ち上げて、塗師の養成と現代の暮らしにあった製品づくりを行っています。



伊勢春慶と上松の工芸作家とのコラボ作品

ます。今回、「伊勢春慶二十周年展」で木曽(上松町)の工芸作家とのコラボを行い、ウッドボール、新・入れ子を展示します。

参考文献『お伊勢さんと遷宮』『お伊勢さんニュース』(伊勢文化舎発行)